

表 5-2(10)① 朝日飯豊山地（朝日山）の情報収集結果一覧

No.	10
広域ブナ林名称	朝日飯豊山地（朝日山）
都道府県名	山形県、新潟県
成立要因	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海側のブナ林は全て、南から北上してきたブナが、多雪地帯に残存したもの。 ・氷期に東北地方に残存していた、地域個体群から拡大した可能性もある。
林齢	<ul style="list-style-type: none"> ・コメント、記載等なし。
林相	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃地方以北の日本海側ブナ林は、組成的な差が小さく、ほぼ同じ。 ・美濃地方以北の日本海側ブナ林は全て、ブナが林冠の80~90%を占めている。 ・林床に低木が多く、常緑、落葉低木が混ざったような林相である。 ・林床にチシマザサは少なく、チシマザサが多いところは標高が高い。 <p>○西側の斜面には、広大なブナの自然林が発達している。</p> <p>●起伏が激しい為、ブナ林は白神山地のように面的に分布せず、小面積のものが散在している。</p> <p>●急峻な地形が多く、ブナが発達が良くない。</p>
人為の影響	<p>○朝日飯豊連峰、苗場山、妙高山周辺の新潟県側には、原生的なブナ林がまとまって残存している。</p> <p>○山形県側は、ブナ林がほぼ原生状態で残存している。</p> <p>●急峻地を除き、基本的に人為の影響を受けている。</p> <p>●新潟県側のブナ林は伐採が進み、著しく減少している。</p> <p>●かつて大規模林道の工事が、連峰の核心部分においても行われていた。</p> <p>●伐採などによって面積が減少したブナ林が多々ある。原生状態のものもあるが、そのほとんどが小面積であり、散在している。</p>
ブナ林と隣接するその他の植生	<ul style="list-style-type: none"> ・ブナ林と偽高山植生、雪崩地の植生とがモザイク状に分布していて、多雪地帯の環境をよく示している。 ・尾根上にはキタゴヨウが生育している。 <p>●山地帯上部には雪崩の常習斜面が多く、ブナ林は雪崩のつかない局所的な緩い斜面、広い尾根筋や時に風衝斜面などに限定されている。</p>
ブナ林の動植物や生態系など	<ul style="list-style-type: none"> ・環境的にクマゲラが生息していても不思議ではない。 ・地すべりでできた急斜面には、多雪地特有の低木林や、生態系が成立していて、特徴的。 <p>○イヌワシ、クマタカなどの鳥類が生息。</p> <p>○ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザルなどの哺乳類が生息。</p>

・広域ブナ林の特徴を示す情報

○自然性の高さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していることを示す情報

●自然性の低さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していないことを示す情報

表 5-2(10)② 朝日飯豊山地（朝日山）の解析結果一覧

広域ブナ林名称		朝日飯豊山地（朝日山）			
都道府県名		山形県、新潟県			
No.		10-1（その1）	10-2（その2）		
総面積[ha]		30591.6	120754.4		
チシマザサーブナ群団の面積[ha]		15174.7	54941.5		
広域ブナ林内の植生割合	チシマザサーブナ群団	49.6	45.5		
	ブナーミズナラ群集	12.9	14.8		
	その他自然植生	30.1	34.8		
	低自然度植生	6.8	4.2		
林齢（国有林）	面積[ha]	国有林内のブナ林の面積	21514.0	87123.9	
	林齢ごとの面積割合[%]	50年未満	0.1	3.8	
		50年以上100年未満	10.0	3.8	
		100年以上	89.9	92.4	
保護担保措置の指定状況	保護担保措置面積率[%]		11.1	69.9	
	保護担保措置別面積[ha]	国立公園	特保	1868.0	6004.6
			1特	1528.5	8813.7
		国定公園	特保	-	-
			1特	-	-
		自然環境保全地域	原自	-	-
			自環	-	-
		国指定鳥獣保護区	特保	-	3000.0
		森林生態系保護地区	保存	-	27836.0
			保全	-	38774.7

※保護担保措置の区分

- ・ 国立公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・ 国定公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・ 自然環境保護地域 原生：原生自然環境保全地域 自環：自然環境保全地域
- ・ 国指定鳥獣保護区 特保：特別保護地区
- ・ 森林生態系保護地域 保存：保存地区 保全：保全利用地区

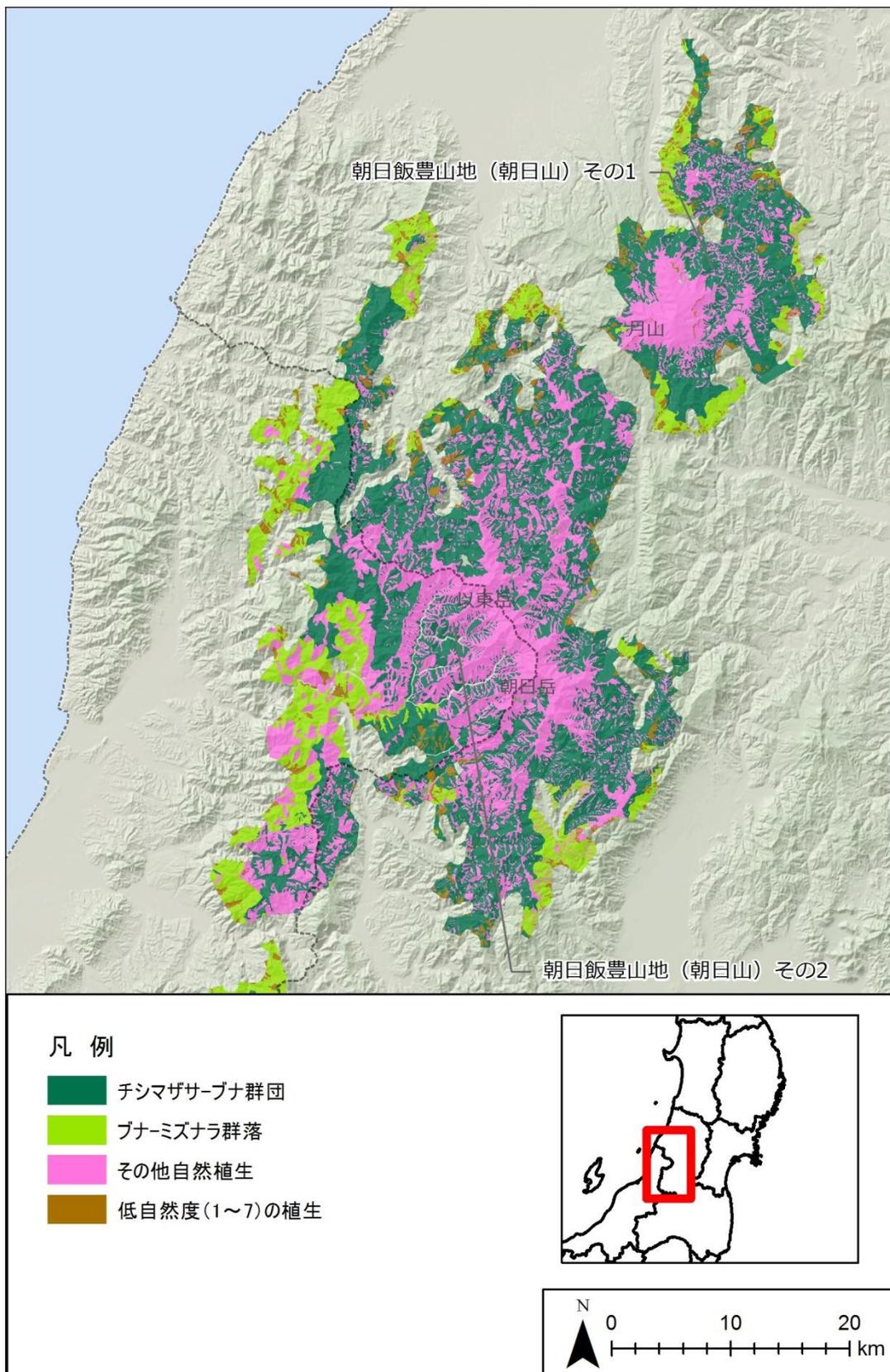


図 5-1(10)① 朝日飯豊山地（朝日山）の植生の分布状況

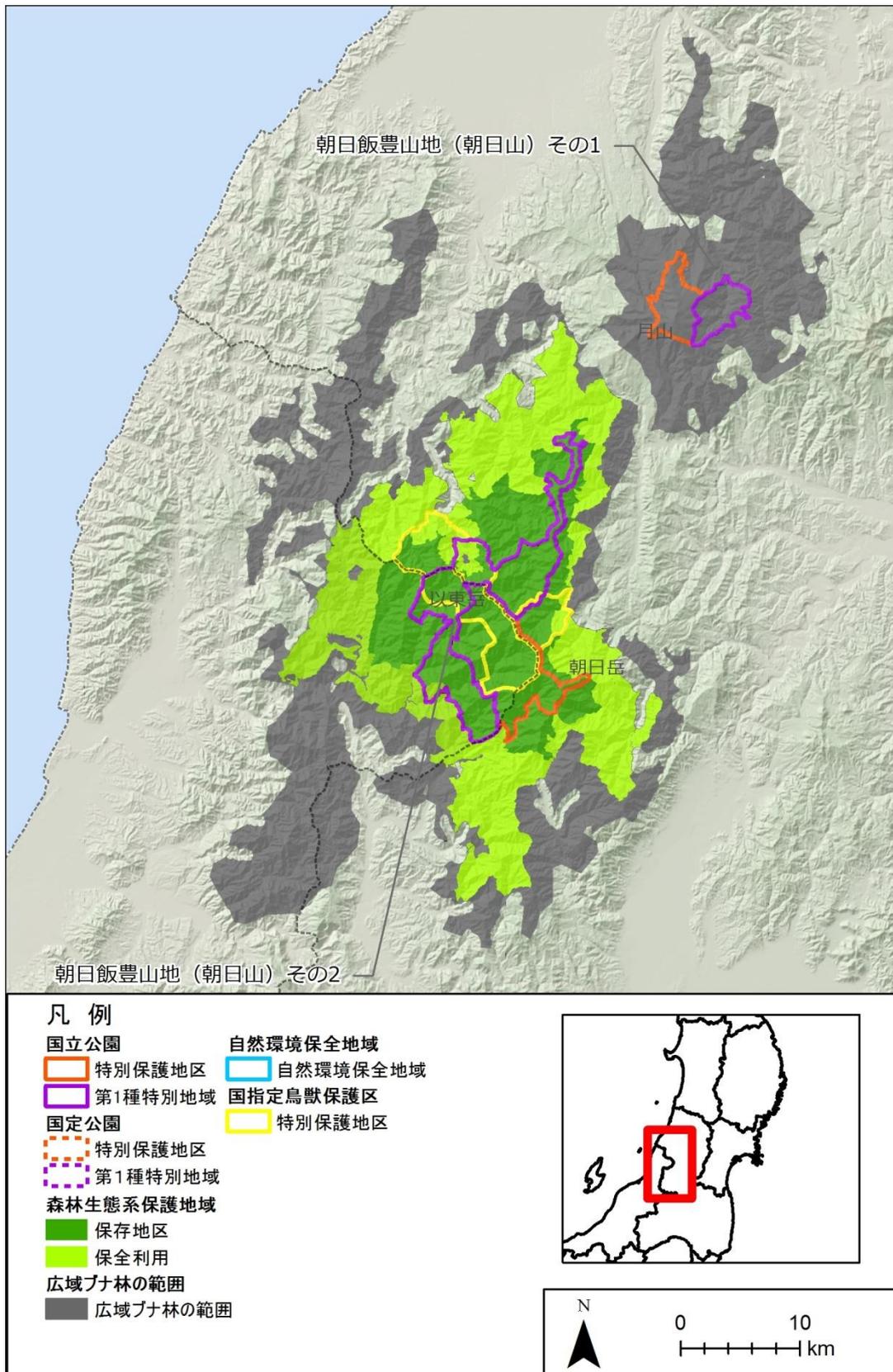


図 5-1(10)② 朝日飯豊山地（朝日山）の保護担保措置の指定状況

表 5-2(11)① 朝日飯豊山地（飯豊山）の情報収集結果一覧

No.	11
広域ブナ林名称	朝日飯豊山地（飯豊山）
都道府県名	山形県、新潟県、福島県
成立要因	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海側のブナ林は全て、南から北上してきたブナが、多雪地帯に残存したもの。 ・氷期に東北地方に残存していた、地域個体群から拡大した可能性もある。
林齢	<ul style="list-style-type: none"> ・コメント、記載等なし。
林相	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃地方以北の日本海側ブナ林は、組成的な差が小さく、ほぼ同じ。 ・美濃地方以北の日本海側ブナ林は全て、ブナが林冠の80~90%を占めている。 ・林床に低木が多く、常緑、落葉低木が混ざったような林相である。 ・林床にチシマザサは少なく、チシマザサが多いところは標高が高い。 ●起伏が激しい為、ブナ林は白神山地のように面的に分布せず、小面積のものが散在している。 ●地形が急峻なため、ブナの発育が良好ではなく、特に山腹斜面のブナ林は貧弱である。
人為の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・藩政時代や明治時代に広域に伐採されているが、現在、見た目では判別できない程にまで回復している部分もある。 ○朝日飯豊連峰、苗場山、妙高山周辺の新潟県側には、原生的なブナ林がまとまって残存している。 ●急峻地を除き、基本的に人為の影響を受けていると考えられる。 ●新潟県側のブナ林は伐採が進み、著しく減少している。 ●ブナの二次林が多く、原生的なブナ林は急斜面地に小面積に残存している程度。
ブナ林と隣接するその他の植生	<ul style="list-style-type: none"> ・ブナ林と偽高山植生、雪崩地の植生とがモザイク状に分布していて、多雪地帯の環境をよく示している。 ・尾根上にはキタゴヨウが生育している。 ●山地帯上部には雪崩の常習斜面が多く、ブナ林は雪崩が起きにくい局所的な緩い斜面、広い尾根筋や時に風衝斜面などに限定されている。
ブナ林の動植物や生態系など	<ul style="list-style-type: none"> ・地すべりでできた急斜面には、多雪地特有の低木林や、生態系が成立していて、特徴的。 ・環境的にクマゲラが生息していても不思議ではない。 ○イヌワシ、クマタカなどの鳥類が生息。 ○ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザルなどの哺乳類が生息。

・広域ブナ林の特徴を示す情報

○自然性の高さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していることを示す情報

●自然性の低さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していないことを示す情報

表 5-2(11)② 朝日飯豊山地（飯豊山）の解析結果一覧

広域ブナ林名称		朝日飯豊山地（飯豊山）		
都道府県名		山形県、新潟県、福島県		
No.		11		
総面積[ha]		76311.7		
チシマザサーブナ群団の面積[ha]		22029.2		
広域ブナ林内の植生割合	チシマザサーブナ群団		28.9	
	ブナーミズナラ群集		20.0	
	その他自然植生		48.2	
	低自然度植生		2.4	
林齢（国有林）	面積[ha]	国有林内のブナ林の面積		43903.4
	林齢ごとの面積割合[%]	50年未満		8.1
		50年以上100年未満		6.3
		100年以上		85.6
保護担保措置の指定状況	保護担保措置面積率[%]			65.8
	保護担保措置別面積[ha]	国立公園	特保	6931.3
			1特	15139.7
		国定公園	特保	-
			1特	-
		自然環境保全地域	原自	-
			自環	-
		国指定鳥獣保護区	特保	-
		森林生態系保護地区	保存	11247.4
			保全	16911.9

※保護担保措置の区分

- ・国立公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・国定公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・自然環境保護地域 原生：原生自然環境保全地域 自環：自然環境保全地域
- ・国指定鳥獣保護区 特保：特別保護地区
- ・森林生態系保護地域 保存：保存地区 保全：保全利用地区

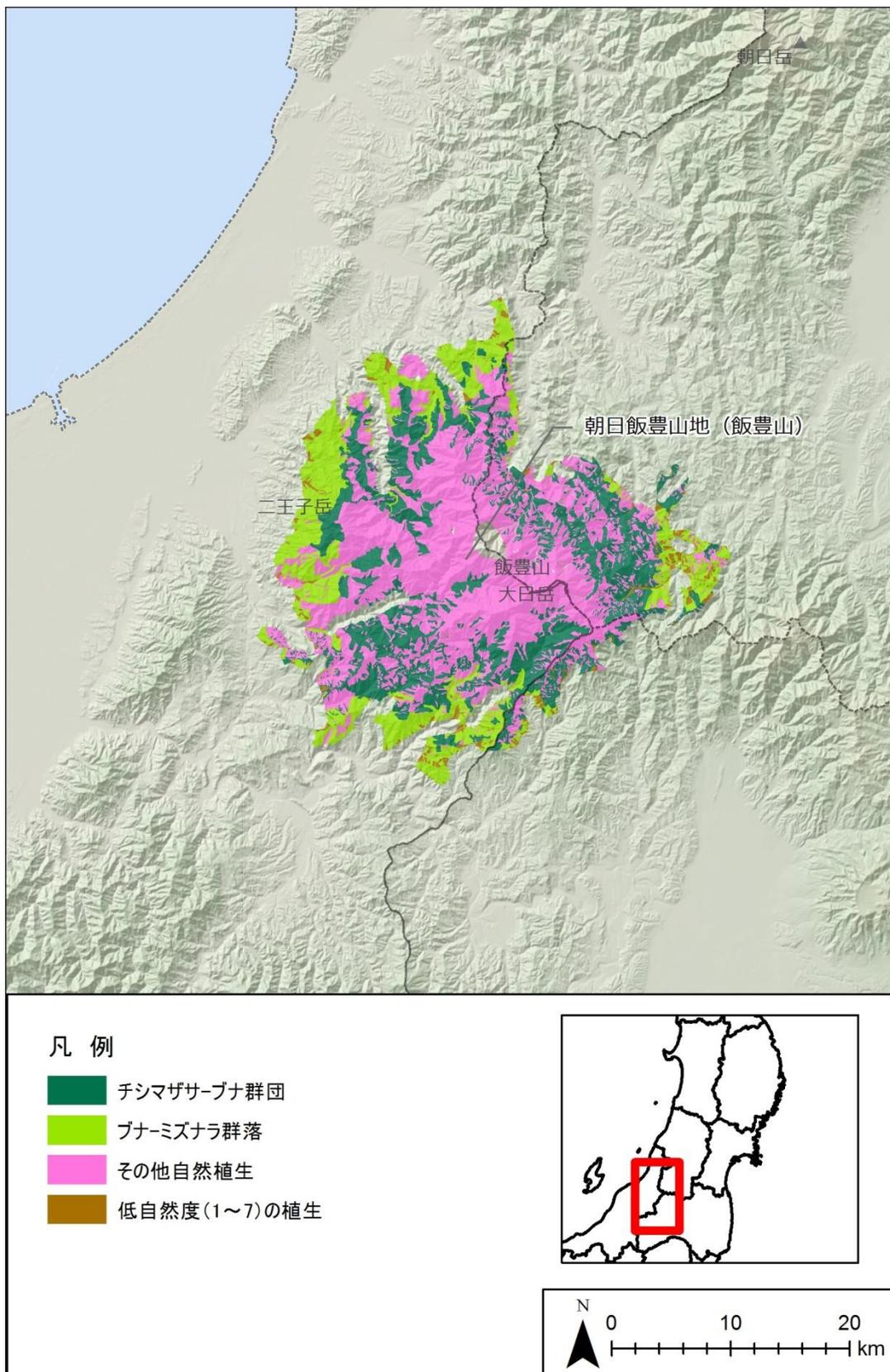


図 5-1(11)① 朝日飯豊山地（飯豊山）の植生の分布状況

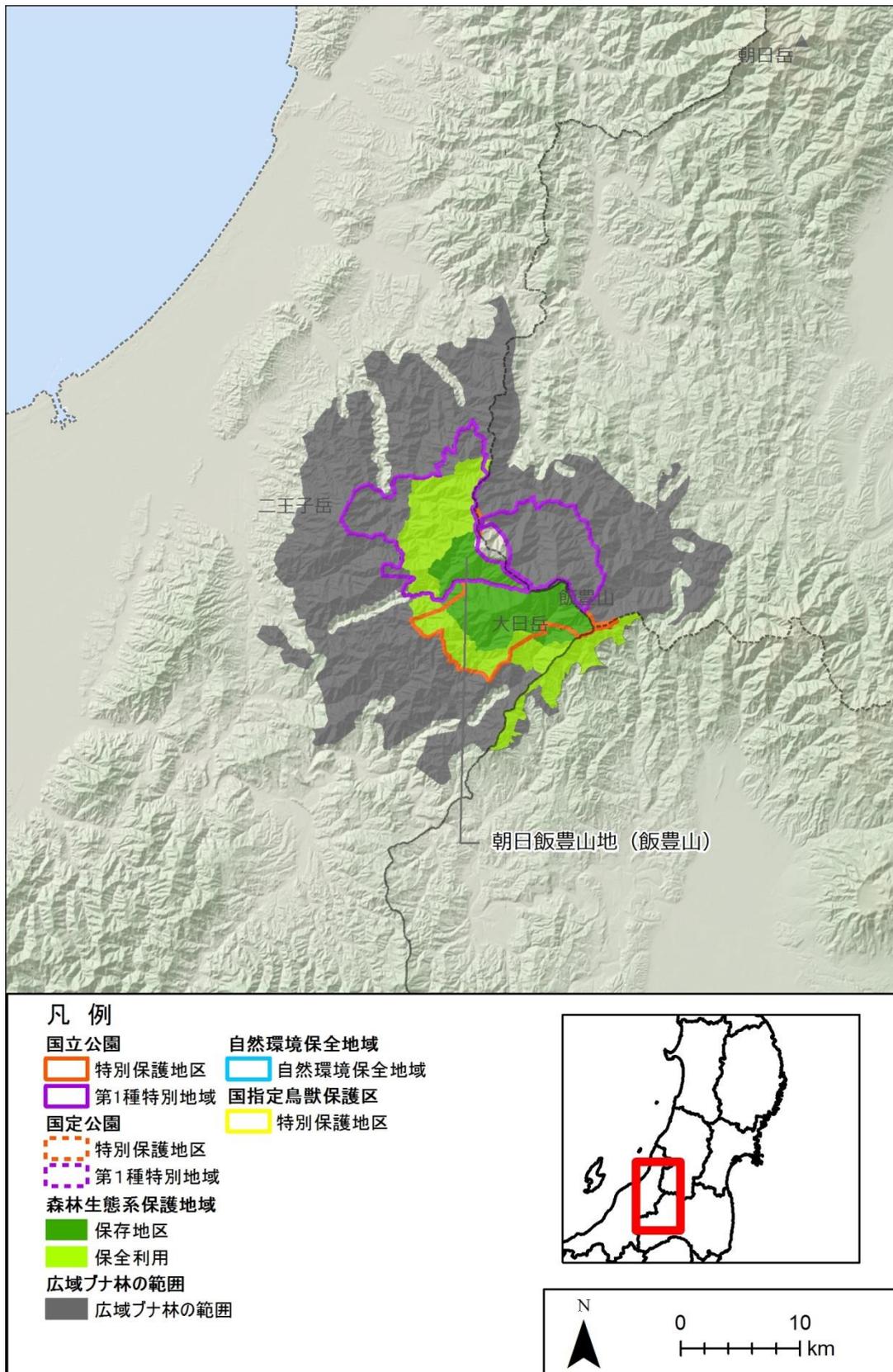


図 5-1(11)② 朝日飯豊山地（飯豊山）の保護担保措置の指定状況

表 5-2(12)① 越後山地の情報収集結果一覧

No.	12
広域ブナ林名称	越後山地
都道府県名	新潟県、福島県、群馬県、栃木県、長野県
成立要因	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海側のブナ林は全て、南から北上してきたブナが、多雪地帯に残存したもの。 ・氷期に東北地方に残存していた、地域個体群から拡大した可能性もある。
林齢	●新潟県側は大部分が二次林であり、ブナ林の林齢は比較的是若い。
林相	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃地方以北の日本海側ブナ林は、組成的な差が小さく、ほぼ同じ。 ・美濃地方以北の日本海側ブナ林は全て、ブナが林冠の80~90%を占めている。 ●新潟県側は、林床にササ類が少なく、ブナの密度が高い場所が多く、二次林的な林相を示す。 ●稜線や山頂部分は、ブナの生育限界を超えているため、ブナ林の成立は認められない。
人為の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・藩政時代や明治時代に広域に伐採されているが、現在、見た目では判別できない程にまで回復している部分もある。 ●大部分がブナ二次林である。 ●越後山地のうち、福島県、栃木県、群馬県のブナ林は、人為の影響が大きい。 ●国有林、民有林共に人為の影響が強く、原生的なブナ林はほとんどない。 ●奥只見周辺では、かつて広範囲にブナ林が発達していたが、一部を除き伐採された。 ●薪炭として利用されてきた為、ブナ林は小規模となっている。
ブナ林と隣接するその他の植生	<ul style="list-style-type: none"> ・ブナ林と偽高山植生、雪崩地の植生とがモザイク状に分布していて、多雪地帯の環境をよく示している。 ・尾根上にはキタゴヨウが生育している。 ●山地帯上部には雪崩の常習斜面が多く、ブナ林は雪崩の起きにくい局所的な緩い斜面、広い尾根筋や時に風衝斜面などに限定されている。
ブナ林の動植物や生態系など	<ul style="list-style-type: none"> ・地すべりでできた急斜面には、多雪地特有の低木林や、生態系が成立していて、特徴的である。 ○イヌワシ、クマタカなどの鳥類が生息。 ○ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザルなどの哺乳類が生息。

・広域ブナ林の特徴を示す情報

○自然性の高さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していることを示す情報

●自然性の低さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していないことを示す情報

表 5-2(12)② 越後山地の解析結果一覧

広域ブナ林名称		越後山地							
都道府県名		新潟県、福島県、群馬県、栃木県、長野県							
No.		12-1 (その1)	12-2 (その3)	12-3 (その4)	12-4 (その5)	12-5 (その6)	12-6 (その7)		
総面積[ha]		44678.6	69167.7	22375.0	32516.2	84067.5	36743.1		
チシマザサーブナ群団の面積[ha]		17960.8	33714.6	12007.7	10814.3	30424.1	12039.5		
広域ブナ林内の植生割合	チシマザサーブナ群団	40.2	48.7	53.7	33.3	36.2	32.8		
	ブナーミズナラ群集	30.1	11.5	18.0	25.9	9.2	1.3		
	その他自然植生	19.3	35.9	21.9	35.5	52.0	61.9		
	低自然度植生	4.6	2.5	5.7	4.8	1.3	2.3		
林齢(国有林)	面積[ha]	国有林内のブナ林の面積		24626.8	43943.0	10018.8	12653.0	43873.6	23216.1
	林齢ごとの面積割合[%]	50年未満		14.6	3.8	0.6	10.5	1.5	3.6
		50年以上100年未満		19.2	6.7	6.3	25.0	6.4	3.7
		100年以上		66.2	89.6	93.1	64.5	92.1	92.7
保護担保措置の指定状況	保護担保措置面積率[%]		14.2	96.6	36.2	79.8	30.8	25.5	
	保護担保措置別面積[ha]	国立公園	特保	-	179.6	28.4	113.2	6337.4	609.6
			1特	-	1561.6	1056.8	2898.0	2518.4	17.4
		国定公園	特保	1950.0	11249.6	-	-	3394.1	-
			1特	1498.1	9907.0	-	-	7323.2	-
		自然環境保全地域	原自	-	-	530.2	-	2348.5	-
			自環	-	-	-	-	-	-
		国指定鳥獣保護区	特保	-	-	-	-	-	-
		森林生態系保護地区	保存	0.0	4856.0	147.8	5255.4	1821.1	5224.2
	保全		2878.6	39090.4	6335.5	17679.6	2118.2	3528.4	

※保護担保措置の区分

- ・ 国立公園 特保：特別保護地区 1 特：第1種特別地域
- ・ 国定公園 特保：特別保護地区 1 特：第1種特別地域
- ・ 自然環境保護地域 原生：原生自然環境保全地域 自環：自然環境保全地域
- ・ 国指定鳥獣保護区 特保：特別保護地区
- ・ 森林生態系保護地域 保存：保存地区 保全：保全利用地区

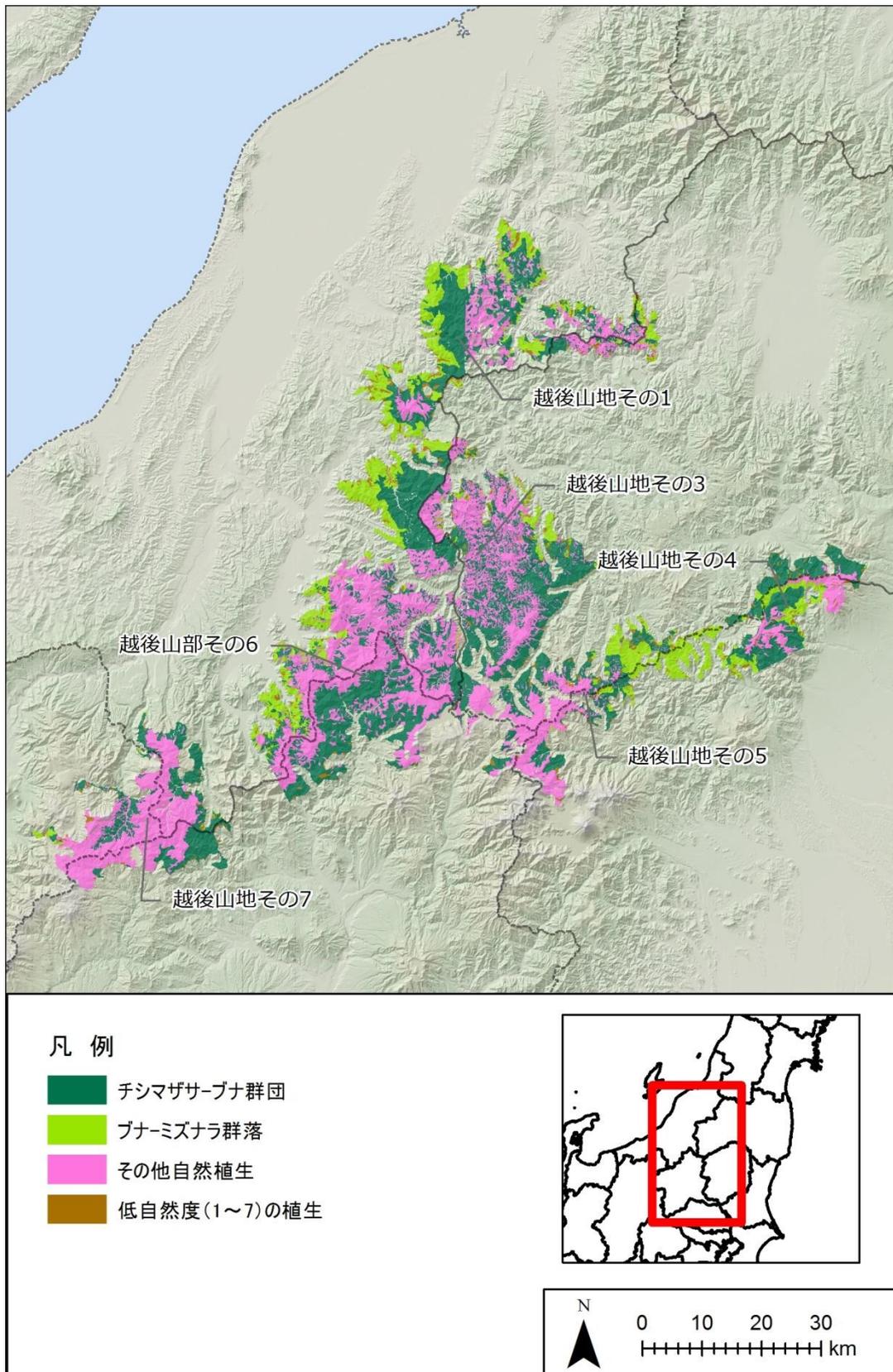


図 5-1(12)① 越後山地の植生の分布状況

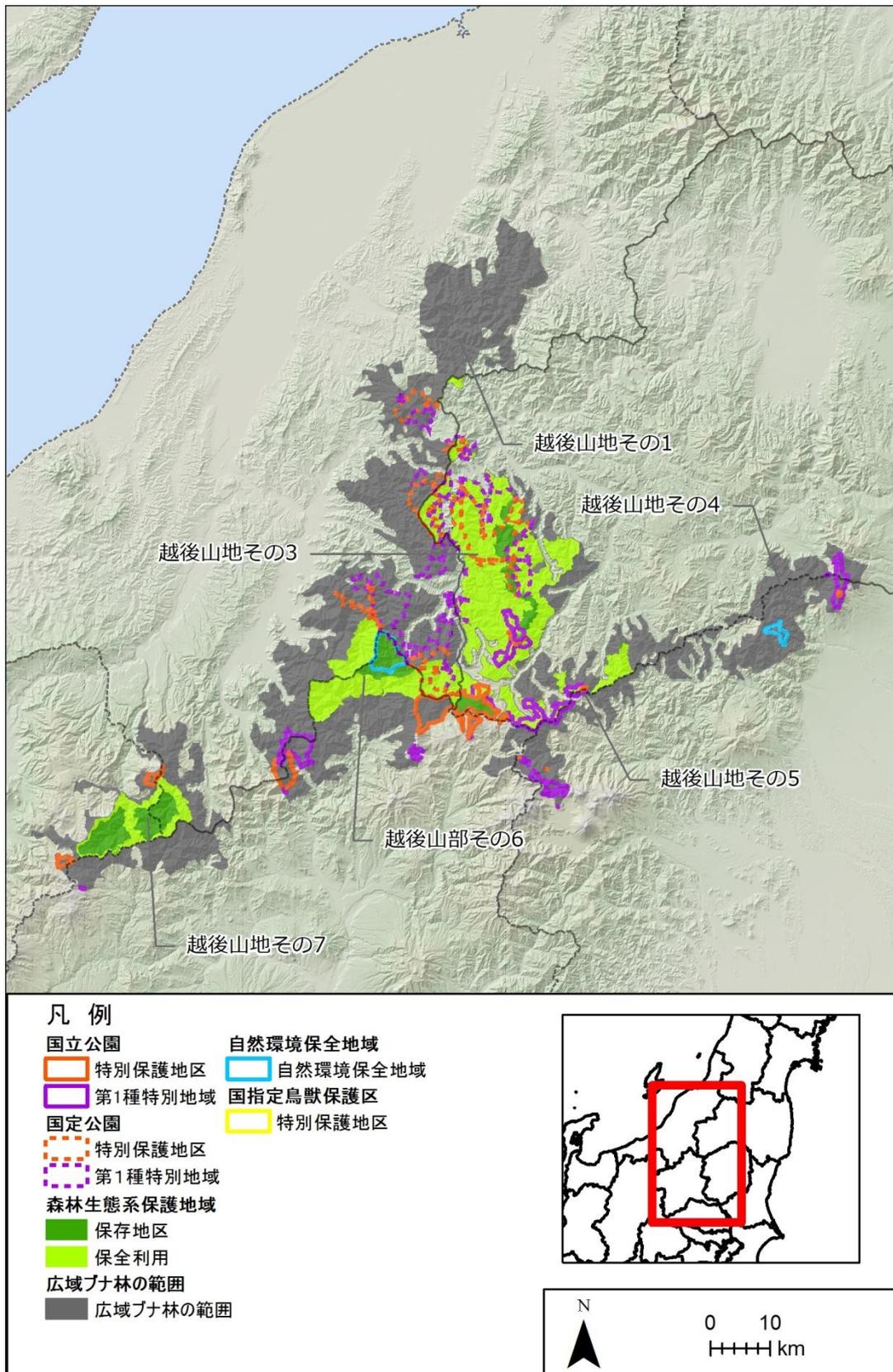


図 5-1(12)② 越後山地の保護担保措置の指定状況

表 5-2(13)① 飛騨山地の情報収集結果一覧

No.	13
広域ブナ林名称	飛騨山地
都道府県名	新潟県、長野県、富山県、岐阜県
成立要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海側のブナ林は全て、南から北上してきたブナが、多雪地帯に残存したもの。 ・ 氷期に東北地方に残存していた、地域個体群から拡大した可能性もある。
林齢	<ul style="list-style-type: none"> ・ コメント、記載なし。
林相	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃地方以北の日本海側ブナ林は、組成的な差が小さく、ほぼ同じ。 ・ 美濃地方以北の日本海側ブナ林は全て、ブナが林冠の80～90%を占めている。 ・ 美濃山地と比較して、ブナの健全度は高い。 ・ 林床がオオバクロモジやヒメアオキといった低木の場所もある。
人為の影響	<ul style="list-style-type: none"> ● 林業が行われているとは限らないが、図示されていない林道がある。 ● 伐採履歴のないブナが点在している可能性はあるが、ほぼ全域がブナの二次林である。 ● 上越地方で最も多くのブナ林が残る場所であるが、伐採や開発されたブナ林も多い。 ● ブナ二次林や、高木層のブナを残して、垂高木層、低木層は全て伐採されている林分が多い。
ブナ林と隣接するその他の植生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高標高地は自然草原やミヤマハンノキ、ダケカンバ林になっている。 ・ 高標高地には高山植生が成立している。 ・ 高標高地では偽高山帯になっており、広葉樹林が連続的にダケカンバ林などに変化する。
ブナ林の動植物や生態系など	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニホンジカが分布を拡大しており、ニホンカモシカと競合している。 ○ イヌワシ、クマタカなどの鳥類が生息。 ○ ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザルなどの哺乳類が生息。 ○ ツキノワグマの密度が高い。

・ 広域ブナ林の特徴を示す情報

○ 自然性の高さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していることを示す情報

● 自然性の低さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していないことを示す情報

表 5-2(13)② 飛驒山地の解析結果一覧

広域ブナ林名称			飛驒山地				
都道府県名			新潟県、長野県、富山県、岐阜県				
No.			13-1 (その1)	13-2 (その2)	13-3 (その3)	13-4 (その4)	
総面積[ha]			28501.3	18177.2	39438.8	23833.6	
チシマザサーブナ群団の面積[ha]			6370.8	7786.3	13428.8	10448.4	
広域ブナ林内の植生割合	チシマザサーブナ群団		22.4	42.8	34.0	43.8	
	ブナーミズナラ群集		29.8	25.6	20.5	12.8	
	その他自然植生		42.6	18.5	40.3	41.5	
	低自然度植生		3.8	11.3	3.2	1.5	
林齢 (国有林)	面積[ha]	国有林内のブナ林の面積	11682.3	7766.7	15971.2	11889.5	
	林齢ごとの面積割合[%]	50年未満	0.9	1.2	0.0	0.0	
		50年以上100年未満	11.3	3.3	7.4	0.8	
		100年以上	87.8	95.5	92.5	99.2	
保護担保措置の指定状況	保護担保措置面積率[%]		21.1	11.1	11.2	32.4	
	保護担保措置別面積[ha]	国立公園	特保	2146.3	1323.4	1088.2	2198.1
			1特	3872.1	691.8	3345.9	4473.0
		国定公園	特保	-	-	-	-
			1特	-	-	-	-
		自然環境保全地域	原自	-	-	-	-
			自環	-	-	-	-
		国指定鳥獣保護区	特保	-	-	-	1040.6
		森林生態系保護地区	保存	-	-	-	-
	保全		-	-	-	-	

※保護担保措置の区分

- ・ 国立公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・ 国定公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・ 自然環境保護地域 原生：原生自然環境保全地域 自環：自然環境保全地域
- ・ 国指定鳥獣保護区 特保：特別保護地区
- ・ 森林生態系保護地域 保存：保存地区 保全：保全利用地区

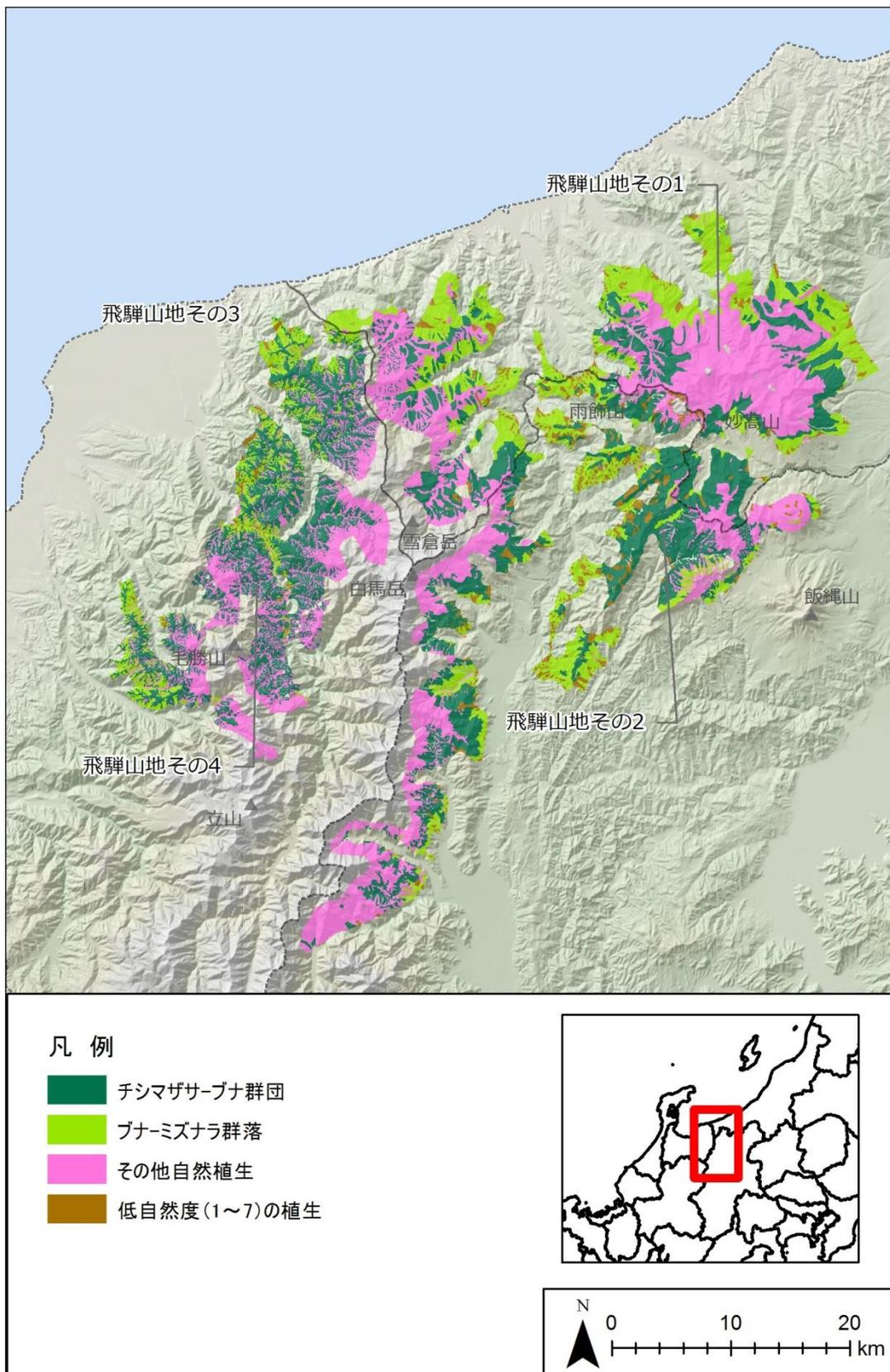


図 5-1 (13)① 飛驒山地の植生の分布状況

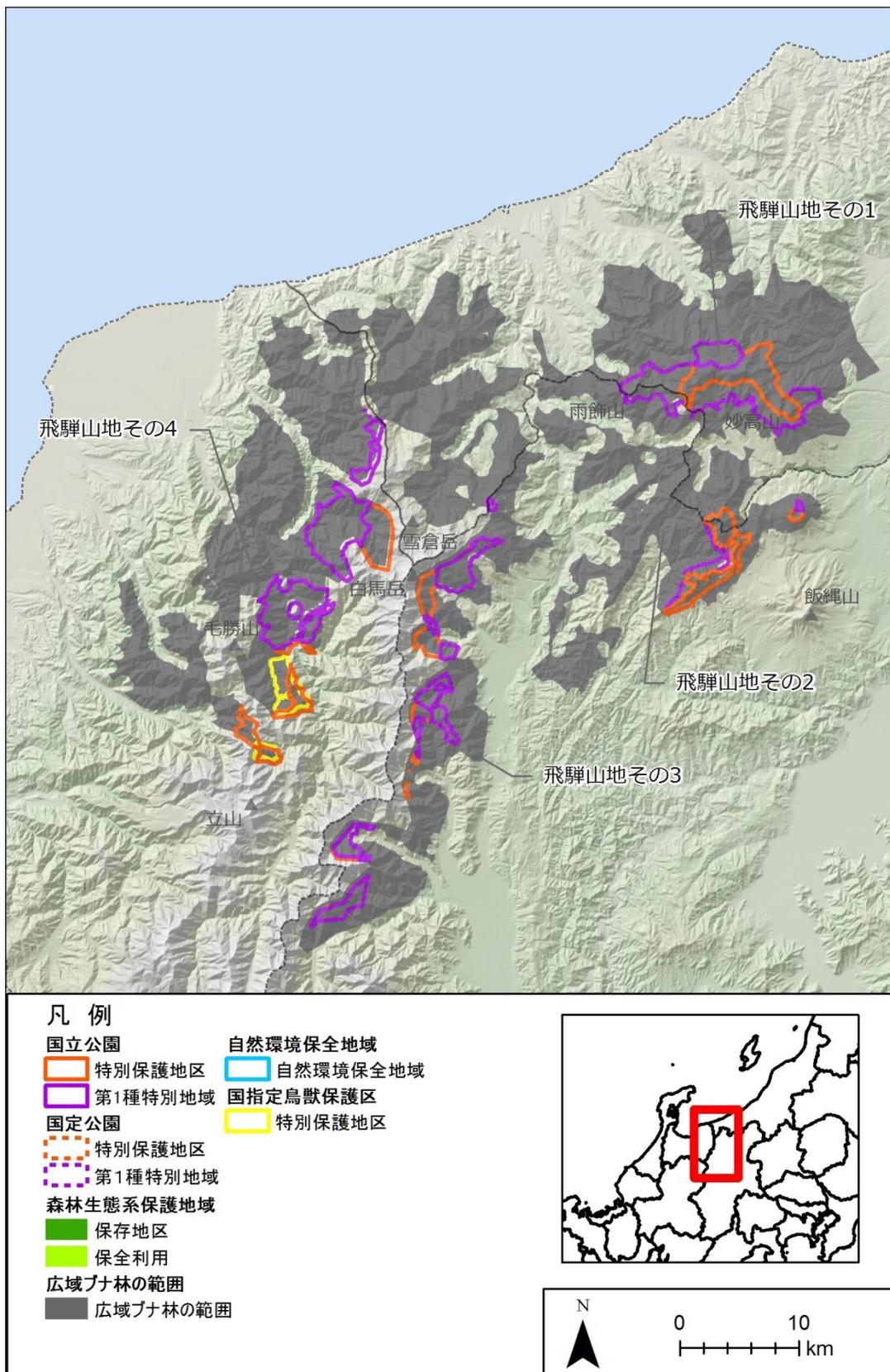


図 5-1(13)② 飛騨山地の保護担保措置の指定状況

表 5-2(14)① 加賀山地の情報収集結果一覧

No.	14
広域ブナ林名称	加賀山地
都道府県名	富山県、石川県、岐阜県
成立要因	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海側のブナ林は全て、南から北上してきたブナが、多雪地帯に残存したものである。 ・氷期に東北地方に残存していた、地域個体群から拡大した可能性もある。 <p>○信仰（白山信仰）や文化的な背景もあり、開発を免れた。</p>
林齢	<ul style="list-style-type: none"> ・コメント、記載なし。
林相	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃地方以北の日本海側ブナ林は、組成的な差が小さく、ほぼ同じ。 ・美濃地方以北の日本海側ブナ林は全て、ブナが林冠の80~90%を占めている。 ・美濃山地と比べ、ブナの健全度は高い。 ・林床がオオバクロモジやヒメアオキといった低木が占める場所もある。
人為の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・大白川流域には、現在でも比較的まとまったブナ林が発達している。 ●伐採履歴のないブナが点在している可能性はあるが、ほぼ全域がブナの二次林である。 ●林業が行われているとは限らないが、図示されていない林道がある。 ●ブナ林は各所で人間による破壊活動を受けており、白山国立公園内でも広大な自然林を見ることは少ない。
ブナ林と隣接するその他の植生	<ul style="list-style-type: none"> ・高標高地は自然草原やミヤマハンノキ、ダケカンバ林になっている。 ・高標高地には高山植生が成立している。 ・高標高地では偽高山帯になっており、広葉樹林が連続的にダケカンバ林などに変化する。
ブナ林の動植物や生態系など	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカが分布を拡大しており、ニホンカモシカと競合している。 ○イヌワシ、クマタカなどの鳥類が生息。 ○ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザルなどの哺乳類が生息。 ○ツキノワグマの密度が高い。

・広域ブナ林の特徴を示す情報

○自然性の高さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していることを示す情報

●自然性の低さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していないことを示す情報

表 5-2(14)② 加賀山地の解析結果一覧

広域ブナ林名称		加賀山地			
都道府県名		富山県、石川県、岐阜県			
No.		14-1 (その1)	14-2 (その2)		
総面積[ha]		19144.7	41288.1		
チシマザサーブナ群団の面積[ha]		11232.2	22532.0		
広域ブナ林内の植生割合	チシマザサーブナ群団	58.7	54.6		
	ブナーミズナラ群集	24.0	10.3		
	その他自然植生	10.6	28.6		
	低自然度植生	5.8	5.1		
林齢 (国有林)	面積[ha]	国有林内のブナ林の面積	8023.7	19533.6	
	林齢ごとの面積割合[%]	50年未満	0.0	7.1	
		50年以上100年未満	36.3	5.3	
		100年以上	63.7	87.6	
保護担保措置の指定状況	保護担保措置面積率[%]		9.5	46.7	
	保護担保措置別面積[ha]	国立公園	特保	1080.5	8149.3
			1特	737.0	1437.0
		国定公園	特保	-	-
			1特	-	-
		自然環境保全地域	原自	-	-
			自環	-	-
		国指定鳥獣保護区	特保	-	-
		森林生態系保護地区	保存	-	3932.5
			保全	-	5766.3

※保護担保措置の区分

- ・ 国立公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・ 国定公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・ 自然環境保護地域 原生：原生自然環境保全地域 自環：自然環境保全地域
- ・ 国指定鳥獣保護区 特保：特別保護地区
- ・ 森林生態系保護地域 保存：保存地区 保全：保全利用地区

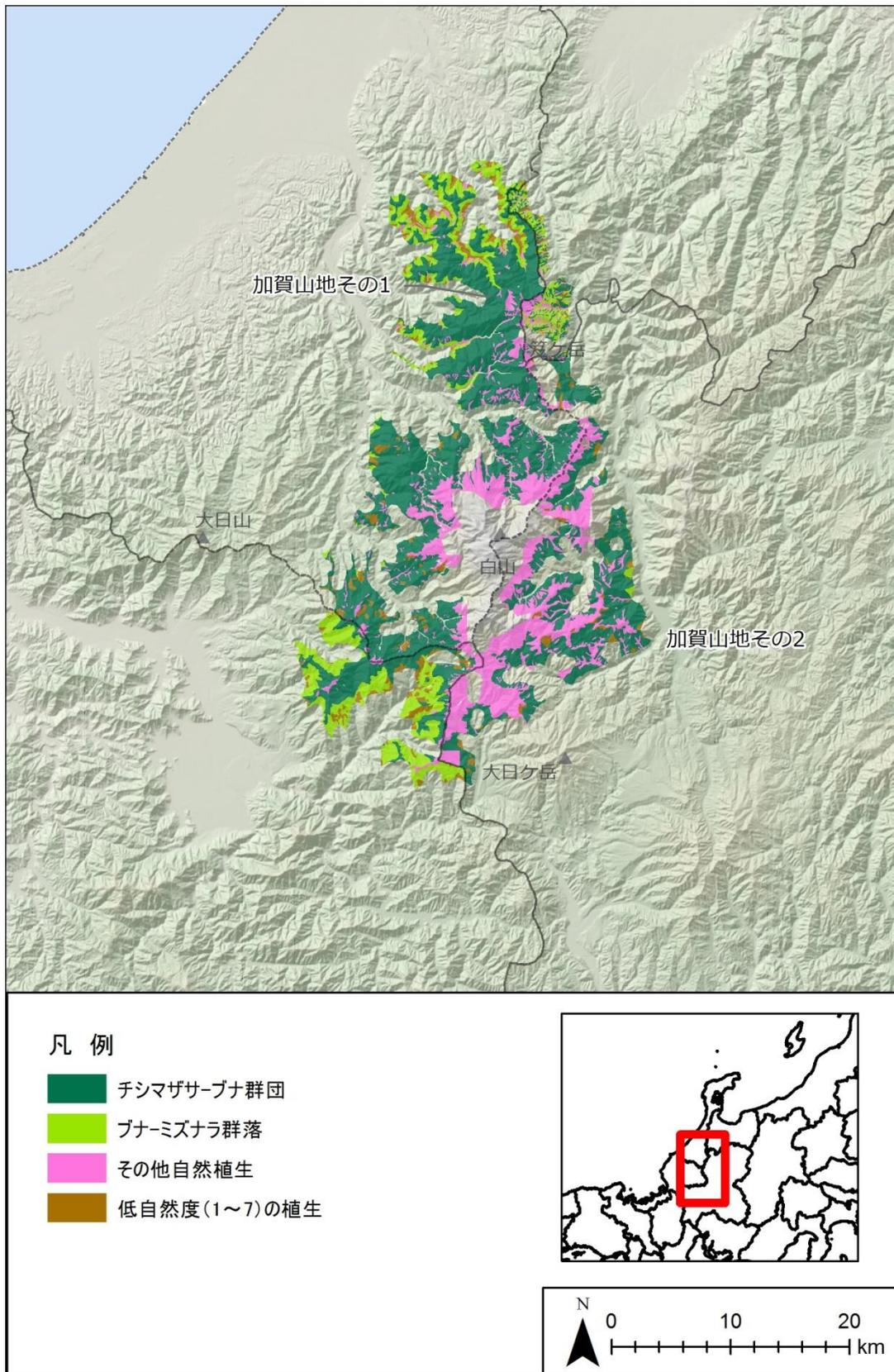


図 5-1(14)① 加賀山地の植生の分布状況

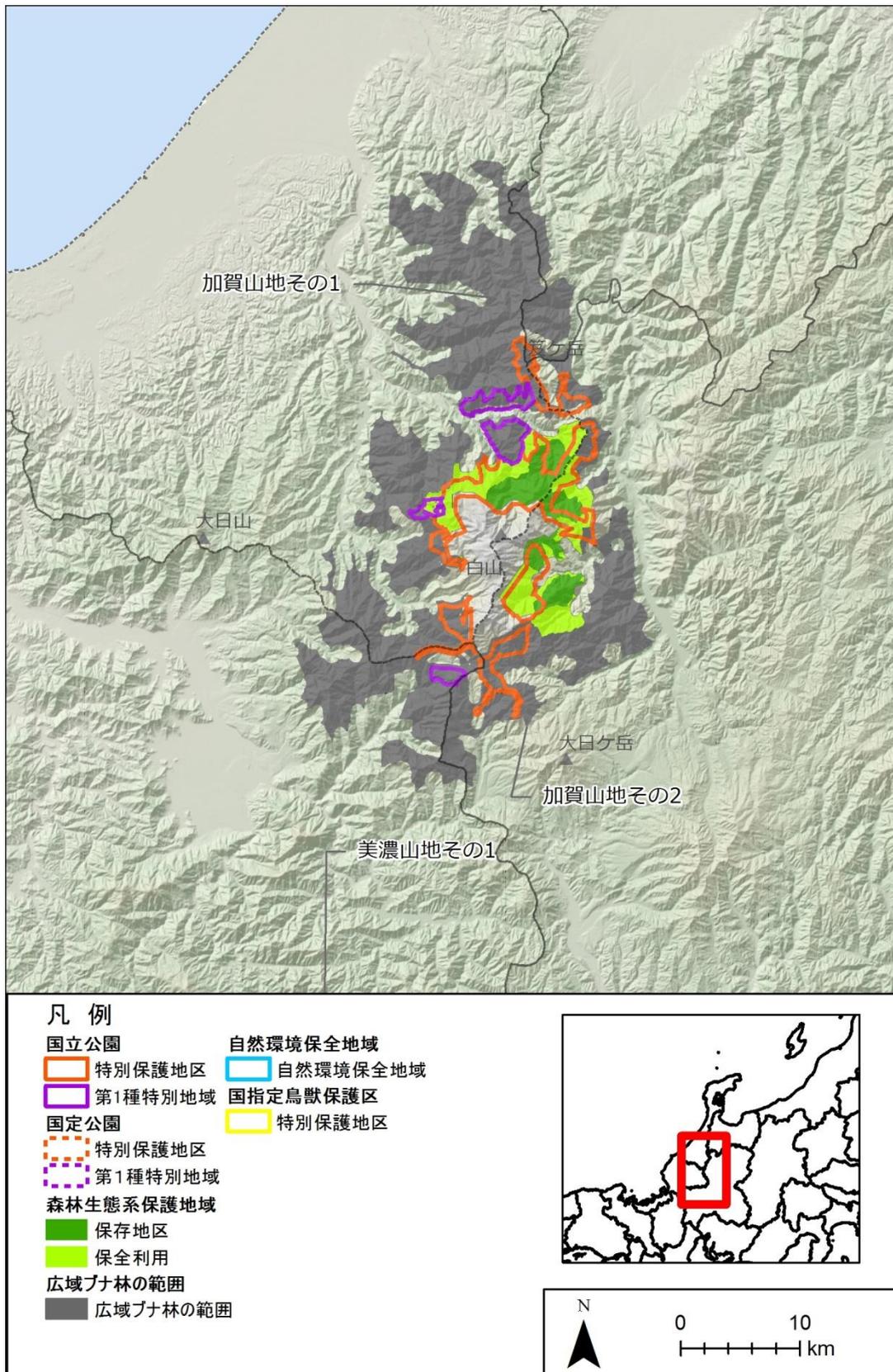


表 5-23(15)① 美濃山地の情報収集結果一覧

No.	15
広域ブナ林名称	美濃山地
都道府県名	岐阜県、福井県、滋賀県
成立要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海側のブナ林は全て、南から北上してきたブナが、多雪地帯に残存したもの。 ・ 氷期に東北地方に残存していた、地域個体群から拡大した可能性もある。
林齢	<ul style="list-style-type: none"> ・ コメント、記載なし。
林相	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃地方以北の日本海側ブナ林は、組成的な差が小さく、ほぼ同じ。 ・ 美濃地方以北の日本海側ブナ林は全て、ブナが林冠の80~90%を占めている。 ・ 林床がオオバクロモジやヒメアオキといった低木が占める場所もある。 ● ブナ林が衰退傾向にあり、ブナの密度が低い。
人為の影響	<ul style="list-style-type: none"> ● 伐採履歴のないブナが点在している可能性はあるが、ほぼ全域がブナの二次林だと考えられる。 ● 林業が行われているとは限らないが、図示されていない林道がある。 ● 人為の利用圧がかなり強く、自然性の高いブナ林はほとんどない。
ブナ林と隣接するその他の植生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高標高地は自然草原やミヤマハンノキ、ダケカンバ林になっている。 ・ 高標高地には高山植生が成立している。 ・ 高標高地では偽高山帯になっており、広葉樹林が連続的にダケカンバ林などに変化する。
ブナ林の動植物や生態系など	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニホンジカが分布を拡大しており、ニホンカモシカと競合している。 ○ イヌワシ、クマタカなどの鳥類が生息。 ○ ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザルなどの哺乳類が生息。 ○ ツキノワグマの密度が高い。

・ 広域ブナ林の特徴を示す情報

○ 自然性の高さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していることを示す情報

● 自然性の低さや、チシマザサーブナ群団がまとまって分布していないことを示す情報

表 5-2(15)② 美濃山地の解析結果一覧

広域ブナ林名称		美濃山地			
都道府県名		岐阜県、福井県、滋賀県			
No.		15-1 (その1)	15-2 (その2)		
総面積 [ha]		14676.7	24577.1		
チシマザサーブナ群団の面積 [ha]		5442.0	9744.4		
広域ブナ林内の植生割合	チシマザサーブナ群団	37.1	39.6		
	ブナーミズナラ群集	32.3	48.7		
	その他自然植生	23.6	2.4		
	低自然度植生	6.1	8.7		
林齢 (国有林)	面積 [ha]	国有林内のブナ林の面積	5812.1	7003.5	
	林齢ごとの面積割合 [%]	50年未満	0.2	6.3	
		50年以上 100年未満	24.4	17.3	
		100年以上	75.3	76.5	
保護担保措置の指定状況	保護担保措置面積率 [%]		0.0	0.0	
	保護担保措置別面積 [ha]	国立公園	特保	-	-
			1特	-	-
		国定公園	特保	-	-
			1特	-	-
		自然環境保全地域	原自	-	-
			自環	-	-
		国指定鳥獣保護区	特保	-	-
		森林生態系保護地区	保存	-	-
			保全	-	-

※保護担保措置の区分

- ・国立公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・国定公園 特保：特別保護地区 1特：第1種特別地域
- ・自然環境保護地域 原生：原生自然環境保全地域 自環：自然環境保全地域
- ・国指定鳥獣保護区 特保：特別保護地区
- ・森林生態系保護地域 保存：保存地区 保全：保全利用地区

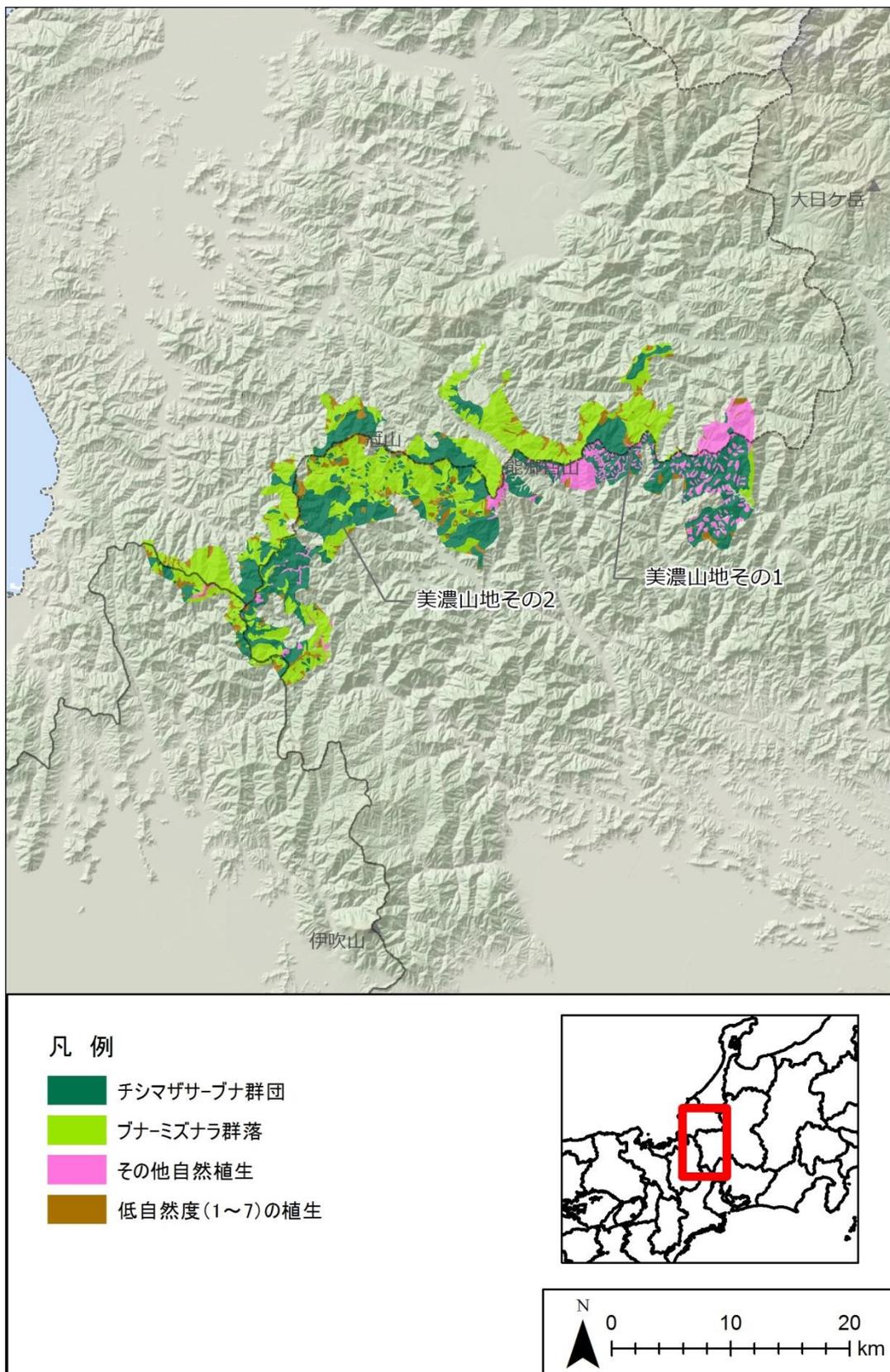


図 5-1 (15)① 美濃山地の植生の分布状況

5.3 まとめ

連続性および自然性の解析と情報収集結果を、白神山地との比較の観点からとりまとめた。

<広域ブナ林>

- ・チシマザサーブナ群団以外の隣接した自然植生等を含む、広義の「広域ブナ林」に関して、総面積で白神山地（30,629ha）を上回る広域ブナ林は10地域抽出され、最も面積が大きい広域ブナ林は、120,754.4haの朝日飯豊山地（朝日山）その2であった。また、朝日飯豊山地（飯豊山）、越後山地その3、越後山地その6の3つの広域ブナ林が、面積50,000haを超え、比較的大面積を呈した。

<チシマザサーブナ群団>

- ・チシマザサーブナ群団の面積が、白神山地と同等以上の20,000ha以上ある広域ブナ林は、朝日飯豊山地（朝日山）その1およびその2、朝日飯豊山地（飯豊山）、越後山地（その3、6）、及び加賀山地（その2）の5地域であったが、全体に占める面積割合はいずれも50%台以下であった。このことは、これら5地域のチシマザサーブナ群団が、比較的広域に幅広く分布していることを示唆している。
- ・また、広域ブナ林に占めるチシマザサーブナ群団の面積割合が、白神山地と同等以上に高い地域は、白子森山地、八幡平山地・和賀岳（その3）、丁岳山地（その2）、神室山地（その1～3）及び船形山地の7地域であったが、いずれの地域においても、チシマザサーブナ群団の面積は白神山地に及ばなかった。
- ・以上のことから、広域ブナ林全体の面積が20,000ha以上あり、チシマザサーブナ群団の面積割合が高い値を示す（約80%）地域は白神山地のみであり、白神山地が全国の広域ブナ林の中で、最もチシマザサーブナ群団が大面積かつまとまって分布していることが明らかとなった。

<対象2地域について>

- ・対象2地域を含む、朝日飯豊山地（朝日山）、朝日飯豊山地（飯豊山）、越後山地の3地域の広域ブナ林については、ブナ林が偽高山植生とモザイク状に分布し、特に朝日飯豊山地においては、急傾斜地のために雪食地形と低木林が多く、ブナ林が白神山地のように、大面積に均一的に分布しておらず、白神山地とは異なる特性を有しているといえる。
- ・また、これらの広域ブナ林は、ヒアリング・文献等から伐採や開発などの情報が多く、白神山地と比較すると、人為の影響が比較的大きいと考えられる。加えて、自然性の高いブナ林は、小面積のものが点在している程度と考えられる。

本業務では、全国のチシマザサーブナ群集に対して、一定の基準に沿って広域ブナ林の抽出を行った。さらに、連続性および自然性の解析を行うとともに、ヒアリングや文献調査を通して、情報の収集・整理を行った。

以上の解析を通して、抽出された各地域の広域ブナ林は、白神山地と比較して、面積、連続性、自然性において、顕著な優位性や補完材料を有しているとはいえないと評価された。このため、各地域のブナ林について、白神山地とのシリアル・アプローチ（飛び地状に連続した遺産推薦の取組）の現実性は低いものと判断される。

今後は、白神山地の世界遺産としての価値を含めて、多雪環境下に成立するブナ林の研究がさらに進むことが期待されるとともに、そのような研究成果等の新たな知見や情報の収集が必要であると考えられる。

平成 27 年度 世界自然遺産候補地詳細調査検討業務
報告書

2016 年（平成 28 年）3 月

業務発注者 環境省自然環境局
〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2
TEL : 03-3581-3351

業務受託者 株式会社地域環境計画 大阪支社
〒569-1123 大阪府高槻市芥川町 1-15-18
ミドリ芥川ビル
TEL : 072-684-3182